

令和7年度 大田区立田園調布小学校 授業改善推進プラン

わたしたちの授業改善のポイント

基本方針

児童の学ぶ意欲を高め、意図を明確にした協働的な学習を重視し、より質の高い授業づくりを目指します

授業改善のポイント

わたしたちは

*体験的・問題解決的な学習を重視する中で、児童による主体的で協働的な学習活動を充実させ、創造的な問題解決能力やコミュニケーション能力の育成を図ります。

*【課題把握】→【計画】→【実践】→【評価】→【改善】のサイクルを重視しながら、日々の授業力を向上させ、見いだされた課題は決してそのままにせず、児童の学力向上につなげます。

育てたい児童

自分と異なる他者の考えやよさを理解し、かかわり合いで主体的に学びを深める子

授業改善によって育むべき能力・態度

- 物事の本質を見抜く力
- 見通しをもち、計画を立てる力
- 根拠を明確にしながら筋道を立てて考える力
- 多面的、総合的に考える力
- コミュニケーションを行う力
- よりよいものを創り出していく力
- 他者と協力し、役割を果たす態度
- 違いを認め、つながりを尊重する態度
- すすんで参加する態度

プランの実効性を高めるための校長の方略

*各教科等の基礎的・基本的な内容の確実な習得とその活用・探究の力を育成するために授業の質を高め、自ら課題を設定し、柔軟に考え、豊かに表現する問題解決的な学習と児童相互のかかわり合いを重視した協働的な学習を日常化します。

【学習過程の工夫：①課題をつかむ⇒②考えをもつ⇒③考えを表す⇒④もう1度考え直す⇒⑤考えをまとめる⇒

⑥振り返りをする(学びを次に生かす)】

※①⑥の学習過程をより充実させ、学びの連続性を重視する。

*個性や能力に応じた指導の充実を図るため、指導体制を工夫・改善し、授業観察等、全教員による指導の組織化を図ります。

*体験的な活動を重視し、その充実と拡充に努めます。

*ゲストティチャーを招聘した教育活動の成果を継承し、地域の教材化や外部人材の活用を積極的に推進します。

*児童による自己・相互評価、教師による診断的・形成的評価の充実に努めます。

*協働的な学習を活性化し、学びの深まりにつなげるためのツールとして、ICTを活用した授業を実践します。

*教科「おおたの未来づくり」及びその「素地づくり」で身に付けてほしい資質・能力を育成します。

〇〇について、
考えていきたい。

どうして、こうなる
のかな？

こんな方法を考えた
から、試してみよう！

〇〇さんの考えを
生かすと・・・

国語科

1 令和7年度大田区学習効果測定結果の分析

(1) 全体的に見た分析結果

4年生、5年生の正答率は目標値より大きく上回っており、6年生の正答率は目標値よりも上回っている。学習内容は定着しているといえる。

(2) 観点別に見た目標値との比較

知識・技能

正答率は、4、5、6年生で目標値を上回っている。学習状況は良好といえる。

思考・判断・表現

正答率は、6年生で目標値を上回っており、4、5年生で目標値を大きく上回っている。学習状況は良好といえる。

2 昨年度の授業改善プランの検証 【成果（○）と課題（●）】

知識・技能

- ねらいに応じて意図的に話し合いの場を設定し、自分の考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について指導したことが、情報の扱い方の向上に効果的だった。
- 『読書タイム』の活用やPTAサークル『お話ポケット』、読書月間の取り組みなど、継続的に読書活動の場を設定していることが、語彙を豊かにすることの向上に効果的だった。
- 主語・述語、修飾・被修飾等の構成関係について、学年の系統を意識して指導することで定着が図れているが、より十分に習熟させる必要がある。
- 前学年までに配当されている漢字を確実に習熟させ、文や文章の中で活用できるよう指導する必要がある。

思考・判断・表現

- 他教科にわたって全体やグループ、ペアなどのトークタイムを設定し、話の中心や話し手の意図を捉えながら聞き、質問したり、感想を述べたり、自分の意見を比べたりしながら考えをまとめることに重点をおいて指導したことが児童の話す聞く能力の向上に効果的だった。
- 『読書タイム』の活用やPTAサークル『お話ポケット』、読書月間の取り組みなど、継続的に読書活動の場を設定していることが、児童の読むことに関する能力の向上に効果的だった。
- 教科書だけで文学の読解力を高めることは難しいため、幅広く書物を読む活動を増やし、「読むこと」に関する指導をより十分に習熟させる必要がある。
- 話し手の目的や自分の目的に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめられるよう指導する必要がある。
- 目的や意図に応じて、書くことを選んだり、簡単に書いたりするとともに自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるよう指導する必要がある。

主体的に学習に取り組む態度

- 授業や単元の終末に学習の振り返り活動を行うことで、見通しをもって学習に取り組む姿勢が身に付いてきた。
- 読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付き、すすんで読書に取り組めるよう指導する必要がある。

3 授業改善プラン

低学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 主語と述語のそろった一文を書いたり、文の中における主語と述語の関係を理解して文を書いたりすることができるように指導する。 - 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使ったり、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付いたりできるよう指導する。	- 人物の行動や出来事を捉え、人物がしたことや様子を具体的に想像しながら読むことができるように指導する。 - 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができるよう指導する。	1 単位時間の終末には振り返りの時間を設定する。選択肢を用意したり、視点を絞り過ぎない聞き方をしたりすることで、抵抗なく振り返りの習慣を身に付けられるようにする。 - 相手や目的を明確にし、児童とともに学習課題や学習計画を立てる。 - 本を手に取り、読む習慣を身に付ける。
中学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 主語と述語との関係、修飾、被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の種類と使い方を知り、文の中で使うことができるように指導する。 - 漢字の組み立てについて知り、漢字に興味関心をもって読み書きをしたり文や文章の中で使ったりできるように指導する。	- 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら話の中心が明確になるよう話の構成を考えられるように指導する。 - 場面の移り変わりや展開に注意しながら読み、人物の気持ちの変化を叙述から読み取ることができるように指導する。	1 単位時間の終末や単元の終末には振り返りの時間を設定する。振り返りの視点を示し、身に付いた力を児童が自覚できるよう指導する。 - 相手や目的を明確にし、児童とともに学習課題や学習計画を立てる。 - 本を手に取り、読む習慣を身に付ける。
高学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解できるよう指導する。 - 読む活動を積極的に行い、語彙を豊かにできるようにする。 - 漢字の成り立ちや漢字の部分と音、部分と意味との関係について知り、漢字に興味関心をもって読み書きをしたり文や文章の中で使ったりできるように指導する。	- 中心となる人物が会う人やもの、経験した事が物語においてどんな役割をもっているか考えることを通して全体像を捉えられるように指導する。 - 人物の心情や性格を、情景を描くことによって想像させるなど、様々な表現の工夫が用いられていることを指導する。 - 筋道の通った文章となるように、全体の構成や展開を考えたり、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりできるよう指導する。	1 単位時間の終末や単元の終末には振り返りの時間を設定する。振り返りの視点を示し、身に付いた力を児童が自覚したり、自らの学習を調整したりしながら学習を進められるよう指導する。 - 新聞や本を手に取り、積極的な読書の習慣を身に付けられるようにする。 - 相手や目的を明確にし、児童とともに学習課題や学習計画を立てる。

社会科

1 令和7年度大田区学習効果測定結果の分析

(1) 全体的に見た分析結果

正答率は、どの学年も目標値を上回っており、学習状況は良好といえる。

(2) 観点別に見た目標値との比較

知識・技能

6年生の正答率は、目標値と同程度であり、学習状況は概ね良好である。4・5年生の正答率は、目標値を上回っているため、学習状況は良好といえる。

思考・判断・表現

正答率については、4年生は目標値を大幅に上回っている。5・6年生は目標値を上回っている。学習状況は良好といえる。

2 昨年度の授業改善推進プランの検証 【成果（○）と課題（●）】

知識・技能

○高学年は問題解決的な学習を中心にした授業展開を重視し、学習内容を定着させることができた。

●中学年は問題解決的な学習や調査活動を行っているが、資料の読み取りについて課題が見られた。資料から必要な情報を読み取る力を養えるよう指導する。

●高学年は社会的事象について、示されている写真や年表などの資料を正しい視点で読み取ることに課題がある。そのため、資料を読み取る視点を児童に理解させてから、読み取る活動を行う。また、社会科以外の教科でもグラフの見方などを指導する。

思考力・判断力・表現力等

○自分の考えを表す活動を取り入れることで、社会的な事象について考察し、表現する力が付いてきている。

●高学年は、社会に見られる課題の解決について、示された選択肢の中から正しいものを複数選ぶ問題で正答率が低いものもあった。正答の選択肢2つのうち、1つも選べなかった児童は4%しかおらず、ほとんどの児童が正答のものを1つは見出すことができていることから、よりよい社会になるよう考えられる全ての方法を検討し、その中で適したものを選んでいく力を養えるよう指導する。

主体的に学習に取り組む態度

○知識量が豊富な児童が多く、自ら課題に取り組んだり学習内容を追究したりする姿が見られた。

●学力の個人差が大きいため、意欲を高めるために、選択肢を与えるなど個に応じた支援が必要である。

3 授業改善推進プラン

中学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・地図記号や方位など、基本的な知識を確実に身に付けさせるために、反復学習や年間を通じて地図帳の活用をする。 ・地図と写真、グラフなど複数の資料の関連、順序や工程などを読み取れるよう、資料を読み取るための視点を理解させてから活動できるようにする。 ・身近な地域や区の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりについて、人々の生活との関連を踏まえて理解できるよう、調査活動や具体的資料を用いた活動を設定する。（3年） ・資料を基に東京都の地形や土地利用の様子などの地理的条件や伝統、世界とのつながりなどの視点をもって調べ、東京都の特徴について多面的に捉える活動を設定する。（4年）	・見学やインタビュー活動を通して分かった働く人の工夫や努力について、ノートやワークシートに自分の言葉でまとめる活動を取り入れる。 ・つかませたい社会的事象を児童が自ら獲得できるように店や工場の見学、インタビュー活動等を行い、意見を交流し考えを表す活動を重視する。 ・社会的事象を比較したり関連付けたりする力を伸ばすために、店や工場の工夫を調べる活動では、何のための工夫が考えたり、視点に沿って分類したりする活動を取り入れる。 ・学習のまとめでは、自分の生活と結び付けて、学習したことを表現できるように、基本的な用語を使いながら、新聞やポスターなど多様な方法で表現できるようにする。	・社会的な事柄に対して、写真資料や生活経験などを基に話し合い、単元の学習問題を考える活動を取り入れることで、主体的な学びに結び付けられるようにする。 ・火事や事故の防止、水の使い方、ごみ処理の仕方、災害時の行動などについて、単元の中で学習してきたことを活用し、生活の中で自分たちにできることについて考え、学習したことを実生活に結び付けられるようにする。 ・児童が関心をもったことやもっと調べたいことをすすんで調べ、学習を深めることができるようにインターネットの情報だけでなく、書籍なども準備する。
高学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・地図や地球儀を活用し、意図的に地名や土地の様子を調べたり、他教科での調べ学習をしたりすることで、地図の使い方の定着を図る。 ・様々な分野で仕事に従事している人の工夫や努力について、写真や表、グラフなどの資料を基に理解できるようにする。 ・稲作や自動車生産など、実体験が伴わない事柄の学習については、農作業の手順や生産過程などの資料を並び替えたり、ICTを活用したりすることで知識の定着を図る。 ・基本的な用語を知識として定着させるために、それらを用いて毎時間振り返りを書いたり、単元のまとめをしたりする。	・想像図や絵画資料を読み取るときには、人々やものの様子、前の時代との変化等の視点をもたせ、意見を交流することで多面的な見方ができるようにする。 ・2つの資料を比較、関連しながら多面的に時代や事象の特徴を考えたり、表現したりする活動を取り入れる。 ・日本国憲法の問題や三権分立、選挙の仕組み、国連の機関や世界の国々等について、語句のみならず、図を活用してまとめる。 ・公民的資質の基礎を養うため、「選挙に必ず行って政治に参画する」「ユニセフ募金を通して国連事業について調べる」など具体的に自分ができることを考え、表現する場を設定する。	・課題提示の仕方や資料の工夫をすることで、社会的な事柄に対して問題意識や関心を高め、調べたいことを考え、自分の学習問題を立てられるようにする。 ・食糧生産や工業、産業の情報化については、単元のまとめで、学習したこととこれからの社会生活を結び付けて考えられるようにする。 ・くらしと憲法や政治の仕組みがこれからの生活にどのように関わっていくのかを知り、自分の暮らしの中でどのように生かすことができるのかについて考える活動を設定する。 ・歴史上の人物の考え方や功績について考えたり現代の生活様式や文化と比較したりすることで、歴史上の事柄に対して主体的に自分の考えをもてるようにする。

算数科

1 令和7年度大田区学習効果測定結果の分析

(1) 全体的に見た分析結果

各学年の正答率は、目標値を大きく上回っており、学習内容は定着しているといえる。

(2) 観点別に見た目標値との比較

知識・技能

正答率は、4年生、5年生、6年生は目標値を大きく上回っている。学習状況は良好といえる。

思考・判断・表現

正答率は、4、5、6年生ともに、目標値を大きく上回っており、学習状況は良好といえる。

2 昨年度の授業改善プランの検証 【成果（○）と課題（●）】

知識・技能

○算数の用語や学習した内容、児童の作品を教室内に掲示することで、既習事項を生かして自分の考えをもつことができる児童が増えた。

● km を m で表したり、 L を mL で表したりする単位の変換や、適切な単位を選択したり、量のイメージをもったりすることが苦手な児童が多くいる。実体験を通して、量感覚を養っていく必要があると考える。

思考・判断・表現

○問題から必要な情報を取り出して解決に用いることが苦手な児童に対しては、聞かれていることや分かっていることに印をつけさせたり、具体物を提示して問題文の読み取りを丁寧に行ったりすることで、必要な情報を整理して立式できる児童が増えた。

●文章問題から図や数直線を考えたり、図や数直線から問題場面を考えたりすることにおいて、定着が不十分である。問題文と図を関連させ、読み取る力や問題を考える力を養っていく。

●正答は出せるが、なぜその答えになったのか、根拠を説明できる児童は少ない。自分の考えとの共通点や違いに気が付けるような機会を設けていく。また、友達の考え方をもとに、自分の言葉で友達の考え方を説明する機会を設けて、多様な表現の仕方や考え方の多様性を養っていく。

●具体的な場面や言葉の式を文字や記号で表す、数量関係の表し方につまずく児童がいる。具体的な事象から一般化へのスムーズな思考の発展のために、「A数と計算」以外の領域の学習においても式を□や○を用いて一般化したり、どの場面や数値でも対応できる方法を考えたりする活動を取り入れていく。

主体的に学習に取り組む態度

○児童が学習を振り返る場を設けたことで、既習事項との関連や新たな課題に児童自身が気付いたり、自身の学び方や友達の考え方のよさに気付き、振り返ったりすることができる児童が増えてきた。

●自分の考えと友達の考えを比較したり、友達の考えのよさを自分の考えとして取り入れたりすることはできていない。そのため、友達の考え方を予想したり、筋道を立てて説明したりする活動を取り入れていく。

3 授業改善プラン

低学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 日常の生活場面と算数を関連付けた問題作りの時間を単元の中で意図的に設定する。 ・ 具体物を操作する活動を取り入れ、身近な生活と関連付けて行わせるようにする。 ・ 学習した内容を生かして解決する適用問題を、単元の中で意図的に設定する。	・ アレイ図や数の線を使って、自分の考えを整理してノートに表すかき方を指導する。 ・ 具体物や半具体物を操作したり絵や図で表したりしながら自分の考えをもち、説明できるようにする。	・ 算数の用語（直線、直角、時間、時刻など）や学習した内容を、教室内に掲示する。 ・ 新単元に入る際には、既習事項を想起させる。 ・ 友達と自分の考え方、表し方のよさに気付かせる。
中学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 日常の生活場面と算数を関連付けた問題作りの時間を単元の中で意図的に設定する。 ・ 作業的、体験的な活動を計画的に取り入れる。平行四辺形・ひし形・台形の定義や性質を活用して、正しく作図できるように指導する。 ・ 学習した内容を生かして解決する適用問題を単元の中で意図的に設定し、解法を比較することで、それぞれのよさに気付けるようにする。	・ テープ図や線分図、数直線を使って、自分の考えを表すかき方を指導する。 ・ 図、表、式、言葉、グラフなど様々な説明の仕方があることに気づき、算数の用語を使いながら自分の考えを説明することができるようにする。 ・ 友達のかいた図、式、表、グラフなどを見て考え方を理解したり、友達と自分の考えを比較したりして、それぞれの考え方のよさに気付かせる。	・ 算数の用語（半径、直径、角、平行、以上、未満など）や既習内容を、教室内に掲示する。 ・ 新単元に入る際には、既習事項を想起させる。 ・ 友達と自分の考え方、表し方を比較し、それぞれのよさを考えさせ、よりよい考えを活かそうとする態度を育てる。そのために、少人数のグループや全体で、考えを交流する活動を繰り返し行う。
高学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 日常の生活場面と算数を関連付けた問題作りの時間を単元の中で意図的に設定する。 ・ 作業的、体験的な活動を計画的に取り入れる。合同な図形や正多角形、対称な図形等をコンパスや分度器を用いて多様な方法で正しく作図できるように指導する。 ・ 学習した内容と既習の知識を比較し、考えを統合的に捉えさせたり、問題の条件等を変えて発展的に考えさせたりする。図や式を検討する中で、計算の順序があることに気付かせ、新たな場面の問題を解決するために既習事項が活用できるという実感を児童にもたせていく。	・ 演算決定の理由や作図の手順、学習のまとめを自分の言葉で書くなど、思考過程を整理して書く習慣を身に付ける。 ・ 数直線や面積図などを使って、帰納的、演繹的、類推的に筋道を立てて考え、式、用語、図などを効果的に使って分かりやすく説明することができるようにする。また、どの解法なら一般化できるのか、はやく、簡単にできる方法はどれかを検討させる。 ・ それぞれの考えの共通点や相違点を捉え、考えのよさに気付いたり、問題に応じて使い分けたりできるようにする。そのために、グループや全体で説明したり、交流したりする活動を繰り返し行う。	・ 算数の用語（体積、多角形、偶数、奇数など）や学習した内容を教室内に掲示する。 ・ 新単元に入る際には、既習事項を想起させる。 ・ それぞれの考えの共通点や相違点などから、よさに気付いたり、問題に応じて使い分けたりしようとする態度を育てる。そのために、少人数のグループや全体で説明したり、考えを交流したりする活動を繰り返し行う。

理科

1 令和7年度大田区学習効果測定結果の分析

(1) 全体的に見た分析結果

正答率は、目標値と比較して4年生・5年生は上回っている。6年生は同等で、概ね良好といえる。

(2) 観点別に見た目標値との比較

知識・技能

4・5年生の正答率は、目標値を上回っており、6年生は同等である。学習状況は概ね良好といえる。

思考・判断・表現

4・5年生の正答率は、目標値を上回っており、6年生は同等である。学習状況は概ね良好といえる。

2 昨年度の授業改善推進プランの検証 【成果(○)と課題(●)】

知識・技能

○ICT機器を活用して観察・実験を行い、知識・理解を深めることができた。

●観察や実験を行う時間を十分に設け、結果を科学的な用語を用いながらまとめたり説明したりする力を付ける必要がある。

●改築工事の関係により、植物を育てて観察する場所の確保が難しいため、ICTを活用しながら植物の生長過程を整理する必要がある。

思考・判断・表現

○予想を立てたり、実験方法を考えたり、結果を根拠に考察をまとめたりすることで自然事象を多面的に捉える力が身に付いた。

●観察や実験を丁寧に行う時間を確保し、結果や考察を科学的な用語を使いながら説明する場を作ること、考察の表現の仕方の定着を図る。

●事象の理解は概ねできているが、説明する力に課題がある。自然事象を比較・関連付けながら、根拠のある予想を立てたり、結果から分かることを考察としてまとめる時間を設けたりすることで自然事象をより多面的に捉える力を伸ばす必要がある。

主体的に学習に取り組む態度

○ICTを活用することで生活経験の差を平均化し、実験の予想を立てることで、興味関心を高め、粘り強く学習に取り組むことができた。

●実験の結果から得られたことを身の回りで起こっている事象を関連させて考えることができるよう、直接体験を重視できるようにする必要がある。

3 授業改善推進プラン

中学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・光、音、磁石などの学習では、実験などの具体的な体験を通して、実感を伴い理解できるようにする。 ・観察、実験に合わせて、最適な観察器具・実験器具を選択できるようにする。また、方位磁石、虫めがね、カセットコンロなどの観察器具や実験器具を定期的に使用し、正しく安全に使用方法を理解させる。 ・既習の学習事項から推測する力を高めるために、基礎的な理解のあと、探求の時間を設定する。 ・学習した科学的用語を定期的に振り返り、定着させることができる時間を設ける。	・観察、実験の結果を表やグラフ、絵などでまとめて整理する活動を取り入れる。 ・気温や水温、地温の変化では、表やグラフを使ったり、一日の温度の変化を実際に測ったりすることで、目盛りや変化を正確に読み取る力を身に付けさせる。 ・身の回りの昆虫や植物を継続して育成し、定期的に観察する活動を通して、1年間の昆虫や植物の変化を季節と関連付け、多様性や共通性、連続性について捉えられるようにする。 ・根拠のある予想や実験・観察の結果とその意味を考える考察とを明確に区別したノート例や見本、理解を深める資料の提示を行うなどのモデルを示していく。	・昆虫の成長や植物の生長の変化だけでなく、天体(太陽や星の動き)についても時期を問わず継続的に観察を行い、体験的な理解を大切にした指導を行う。 ・ICT機器を活用して観察したものの細部を明確にしたり、記録を積み重ねたりすることで、いつでも見返し、確認できるようにする。 ・理解した学習内容が、日常生活に活用されている場面や身の回りの器具や道具に適用・応用されていることなどを探したり、調べたりする活動を取り入れる。 ・空気や水、金属の変化、電気や磁石の性質などそれぞれの特徴を適用して、身の回りの現象について考えたり、その性質を使ったおもちゃ作りをしたりする。
高学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・観察器具や実験器具、薬品等の安全面を十分考え、正しい使用方法を理解して、より正確な実験を行うことができるようにする。 ・観察、実験の結果は、表やグラフ、絵などを用いて整理し、科学的な用語を適切に用いてまとめるようにさせ自分で説明する場面を設定することで、知識や技能の定着を図るようにさせる。	・ICT機器を活用して観察したものの細部を明確にしたり、記録を積み重ねたりすることで、いつでも見返し、確認できるようにする。 ・根拠のある予想を立てるために、自分たちの生活や既習の学習事項と結び付けながら考えさせる。 ・観察、実験をして分かった科学的事象が自分たちの生活において、身近なものとして現れていないかを考えたり、実験結果をまとめる際は、自分の生活経験や既習学習とも関連付けながら、考察を書いたりすることができるようにする。 ・観察、実験で分かったことや考えたことを科学的な用語を用いてまとめ、交流したり、発表したりすることを通して、より確かな概念の形成を目指していく。	・実験から結論として得られた事象が、同じ理由で起こる身の回りの生活の現象と関連して考えられるよう、直接体験を重視する。 ・植物のつくりの学習では、アサガオの花のつくりや花粉の様子を観察する活動を通して、植物の結実について知識を定着させるとともに、他の植物を観察したり、デジタルコンテンツを活用したりすることで、共通点や差異点についても理解を深められるようにする。 ・生命・地球領域に親しむために、自然事象の不思議やおもしろさを映像や動画等のコンテンツ(NHK for school、理科ねっとわーく等)を活用したり、リアルタイムの情報を自ら検索(サイト：日本気象協会、月齢カレンダー等)したりする活動計画を立てる。

生活科

1 昨年度の授業改善プランの検証 【成果（○）と課題（●）】

知識・技能

○ICT機器を効果的に活用することで、児童の気付きを記録し、伝え合いに役立てたり、学習のまとめや振り返りに役立てたりすることができた。

●教師がICT機器の活用方法、年間を見通して計画することで、児童が記録の蓄積を次の学習に役立てるようにする。文章で記録が難しいため、簡単な入力方法を模索していく。

思考・判断・表現

○ICT機器を活用し、動植物の写真を撮影して記録することを効果的に行うことができた。

●絵を描いたり、文章を書いたりして学習の振り返りを十分に行い、伝え合う活動を充実させる。

主体的に学習に取り組む態度

○児童の思いや願いに基づいた学習活動（育てたい野菜、アサガオ）を設定することで、主体的に取り組む姿が見られた。

●野菜を育てる場所（ベランダ）、方法を簡略化することで、児童の意欲を継続できるようにする。

2 授業改善プラン

低学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 一人一人の気付きの質を高めるために、観察や制作など活動や体験の途中での自然な伝え合いを大切にし、よい気付きをその場で認めたり、全体に広げたりする。 - 成長の様子や変化など自然の不思議さやおもしろさを実感させるために、実際に動植物を育てる活動を行い、繰り返し関わったり、育て方を工夫したり調べたりする体験を通して、動植物を大切にすることができるようになる。 - 観察したこと（大きさ、長さ、色、形、におい、音、味、触感）を表現できる言葉を増やすようにする。特に、たとえる言語活動を重視する。 - 気付いたことを比較したり、分類したり、関連付けたりして考えるようにするために、児童が自らの気付きを振り返ったり、互いの気付きを交流したりする場を、学習過程の中に効果的に設定する。	- 繰り返し対象と関わったり、試行錯誤して何度も挑戦したりすることができる学習活動を設定する。 - 国語科等、他教科と関連付けて、様々な表現方法を経験し、どのように表現したらよいか自分なりに考えられるようにする。（ワークシート、個人・グループ発表、紙芝居、新聞、観察カード、ポスター、手紙等）1年生では様々な表現方法を意図的に経験させることを重視し、2年生ではその表現方法を自分で選択をし、より工夫できるようにする。効果的な表現方法として、ICT機器を活用する経験を1年生から積み重ねていく。 - 体験したことや調べたことを伝える際には、幼児や異学年児童、保護者や地域の人々など様々な相手や場を設定し、相手意識、目的意識をもって伝える経験をさせる。 - 自分の役割をしっかりと果たし、動植物の世話をできるように教師側から働きかける。	- 児童が身近な人々、社会及び自然と直接関わる活動や体験を設定し、児童の思いや願い（「～したい。」）を生かした学習計画を立てる。 - 今までの生活経験や学習で積み重ねた知識を活用しながら、主体的に学習の課題・問題の解決に取り組めるようにする。 - 学習過程では、児童が自分の思いや願いをもち、そのための具体的な活動や体験を通して、活動の楽しさや満足感、達成感を実感できるようにする。 - 活動後の振り返りや学習課題の解決過程の中で児童の問いや疑問を引き出す発問を工夫し、児童の「もっとやってみたい」「もっと知りたい」「もっと関わりたい」という気持ちを高めるようにする。 - 学校、家庭及び地域を学習の対象や場とし、そこでの児童の生活から学習を出発させ、学習したことが、学校、家庭、地域での児童の生活に生かせるよう活用する場を設ける。

音楽科

1 昨年度の授業改善プランの検証【成果（○）と課題（●）】

知識・技能

- 音楽を形づくっている要素（音色・速度・旋律・強弱・音の重なり・和音の響き・音階・調・拍・フレーズ・反復・呼びかけとこたえ・変化・音楽の縦と横との関係）に着目し、要素の特徴を見付けたり、要素の働きのよさや面白さを感じ取ったりすることを通して知識を身に付けることができた。
また、連合音楽会や学年末の発表に向けて歌唱や楽器演奏の技能を伸ばすことができた。
- 楽曲の特徴に気付いたり理解したりする力を高めるために、聴き取ったことや感じ取ったことを関連させて言葉で表す活動を更に増やす必要がある。

思考・判断・表現

- 友達の演奏や鑑賞曲を聴いて感じ取ったことを、音楽を形づくっている要素を支えとしながら自分の言葉で伝えられる児童が増えてきた。
- 音楽を特徴付けている要素を基に、歌詞の表す内容や曲想を、どのように表現するかについて思いや意図をもつことを継続的に指導する必要がある。

主体的に学習に取り組む態度

- 授業で行ってきたグループ活動や、個人での発表を聴き合う活動を通して、友達の表現のよさを伝えたり課題をアドバイスしたりすることや、友達の表現のよさを自分の表現に生かすことができている。それに伴い、意欲的に授業に取り組む児童が増えてきた。
- 児童が意欲的に授業に取り組むために、児童同士で協働し、楽曲にふさわしい表現を追究したり楽曲の特徴やそのよさを理解して鑑賞したりできるよう学習過程や学習形態を工夫する必要がある。

2 授業改善プラン

低学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・どのように歌うか、演奏するか、作るかについての思いを実現させるための技能と考え、主体的な学習活動としての技能習得となるようにする。 ・音楽を形づくっている要素の理解にあたっては、体を動かす活動を取り入れるなど、実感を伴ってその要素の働きを感じ取ることができるようにする。	・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取る。 ・音楽の要素に着目しながら聴き取ったことと感じ取ったことの関わりを考える。 ・音楽の要素を手掛かりに表現を工夫したり、曲や演奏の楽しさを見いだしたりする。	・ペアやグループ活動を取り入れ、友達と関わり合いながら協働的に音楽学習に取り組むことができるようにする。 ・様々な楽器（鍵盤ハーモニカ・トライアングル・カスタネットなど）やいろいろな楽曲に触れ、興味関心を高めながら主体的に学習に取り組むことができるようにする。 ・学習を振り返り、既習事項を関連させながら学習のつながりを考えられるようにする。
中学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・どのように歌うか、演奏するか、つくるかについての思いや意図を実現させるための技能と考え、主体的な学習活動としての技能習得となるようにする。 ・音楽を形づくっている要素の理解にあたっては、体を動かす活動や表現の比較を取り入れるなど、実感を伴ってその要素の働きを感じ取ることができるようにする。	・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取る。 ・音楽の要素に着目しながら聴き取ったことと感じ取ったことの関わりを考える。 ・音楽の要素を手掛かりに表現を工夫したり、曲や演奏のよさや面白さを見いだしたりする。	・ペアやグループ活動などの聴き合う活動を取り入れ、友達と関わり合いながら協働的に音楽学習に取り組むことができるようにする。 ・様々な楽器（リコーダー・木琴・鉄琴・キーボードなど）やいろいろな楽曲に触れ、興味関心を高めながら主体的に学習に取り組むことができるようにする。 ・学習を振り返り、既習事項を関連させながら学習のつながりを考えられるようにする。
高学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・どのように歌うか、演奏するか、つくるかについての思いや意図を実現させるための技能と考え、表現の工夫と繰り返し関わらせながら、主体的な学習活動としての技能習得となるようにする。 ・音楽を形づくっている要素の理解にあたっては、体を動かす活動や表現の比較、要素と要素の関連付けを取り入れるなど、実感を伴ってその要素の働きを感じ取ることができるようにする。	・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取る。 ・音楽の要素に着目しながら聴き取ったことと感じ取ったことの関わりを考える。 ・音楽の要素を手掛かりに表現を工夫したり、曲や演奏のよさや面白さを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。	・ペアやグループ活動などの聴き合う活動を取り入れ、友達と関わり合いながら協働的に音楽学習に取り組むことができるようにする。 ・様々な楽器（既習楽器や和楽器など）やいろいろな楽曲に触れ、興味関心を高めながら主体的に学習に取り組むことができるようにする。 ・題材の第1時に学習計画を把握できるようにし、振り返りを通して自分の学習を調整することができるようにする。

図画工作科

1 昨年度の授業改善プランの検証 【成果（○）と課題（●）】

知識・技能

- 低学年では、紙や粘土などを中心に、指先を使う活動を多く取り入れることにより、からだ全体の感覚を高めるとともに材料に慣れさせることができた。
- 中・高学年では、様々な描画材を経験させることで、自分の表したいことに合った描画材の特徴を生かして使ったり、表現に適した方法などを組み合わせたりして、表すことができた。
- 表したいことを実現するための、基本的な道具の扱いを習得できていない児童がいる。使い方を繰り返し指導していくとともに、道具を適切に扱うことの重要性を感じさせる題材に取り組ませる。習得が不十分な児童に対する個別指導を行う必要がある。

思考・判断・表現

- 創作活動を通じて、児童が感じた思いを作品や言葉で表現することができた。
- 様々な形式を用いて鑑賞活動を行い、児童が作品を見合ったり、感想を伝え合ったりすることができた。
- 自分の見方や感じ方を深める力を高めるために、考えたことや感じ取ったことをワークシートやICT機器を活用し、言葉で表す機会を増やすことができた。
- 自分の見方や感じ方を深める力を高めるために、考えたことや感じ取ったことを児童相互で交流し、共有することでさらに深める力を向上させる。

主体的に学習に取り組む態度

- 班別学習や全体で交流することにより、自分なりの課題解決を行うことができる児童が増えた。
- 児童の実態に合わせた既習事項を活かす課題の設定や、様々な見方・考え方を受け止めることができる図工授業の活動を増やすことができた。
- 安全面に注意し、道具の正しい扱い方を確認し児童が身に付けた力を活かして、自分なりの課題解決を自ら考えることができる機会を今後も増やしていく。

2 授業改善プラン

低学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 紙や粘土などの素材を中心に「貼る」「ちぎる」「重ねる」など、指先を使う活動を繰り返し取り入れ、十分に慣れるようにするとともに、楽しみながら表現できるようにする。 - はさみ、のり、絵の具、クレパス、粘土などの基礎的な使い方を体験的に学ぶ課題を設定し、楽しみながら慣れることができるようにする。	身のまわりの作品などから感じたことを話したり、聞いたりするなどして、形や色、表し方のおもしろさに気付かせ、自分の感覚でものを見たり感じたりできるようにする。	- 今までの経験を活かし、活動に応じて材料や用具の使い方を考えさせ、活動全体を工夫できるようにする。 - 自分や友人の作った作品を進んで見たり、作品について話し合ったりすることで、自分の見方や感じ方を広げられるようにする。
中学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 板材、垂木などの素材を中心に、万力、Cクランプ、のこぎり、彫刻刀、くぎ、げんなどを使用する際に、手順や安全上注意することを繰り返し確認し、適切に扱えるようにする。 - 発想や構想したことを表すために、絵の具やコンテパステルなどの描画材や用具の特徴を生かして使わせるとともに、表し方を考えたり、既習事項を活かしたりしながら表現するように指導する。	身近にある作品などから、感じたことや思ったことを言葉や文章で伝え合い、表現のよさやおもしろさ、感じ方の違いを味わう活動の中で自分の見方・考え方をもてるようにする。	- 既習の経験を生かし、新たな造形的な活動を思いついたり、作り方を考えたりすることで活動を発展させられるようにする。 - 自分たちの作品や身近な美術作品に触れることでよさや面白さなどを感じ取り、自分の見方や感じ方を広げられるようにする。
高学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 刃物一般や電動糸のこぎり盤等を使用する際に、手順や安全上注意することを繰り返し確認し、適切に扱えるように指導する。 - 自分のイメージに迫るために、既習の用具・素材を使ったり、描画技法を組み合わせたりする等、表現方法を工夫させ、表したいものに応じて活用できるようにする。	親しみのある作品や生活の中の造形などから、造形的なよさや美しさについて感じ取ったり考えたりし、言葉や文章で伝え合うことを通して自分の見方や考え方を深められるようにする。	- 既習の経験を活かし、自分の表したいことに合わせて材料や用具を選び、表し方や表現方法などを工夫できるようにする。 - 自分たちの作品や美術作品などをすすんで見たり、触ったり、これらについて話し合ったりすることで、造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴を感じ取れるようにする。

家庭科

1 昨年度の授業改善プランの検証 【成果（○）と課題（●）】

知識・技能

- 調理実習では、事前に、調理のシミュレーションを通して各自が調理の手順を把握し、調理の一連の過程で起こる食材の変化等に気付くことができた。また、調理に関する基礎的・基本的な技能を身に付けることができた。
- 調理実習は、班編成を工夫・調整することにより、グループ内で話し合い、役割分担が明確にできていた。
- 裁縫では、動画を見たり、繰り返し練習したりすることで基礎縫いが定着した。ミシン縫いの学習では、保護者にも指導ボランティアとして入ってもらい操作や製作実習の補助をお願いした。基礎的・基本的な技能が定着したことで、その後の作品作りをスムーズに行うことができた。
- タブレットや実物投影機などのICT機器を活用し、作業の手順や方法を示したり、映像で確認したりすることによって、より確実な理解につながった。
- 調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱いの指導の徹底、個別指導の機会を増やす。

思考・判断・表現

- 5年生のゆでる調理実習では、根菜類、葉菜類のゆで方の違いを理解し、おいしいゆで野菜サラダを作ることができた。6年生のいためる調理実習では、ゆでる調理との違いを見付け、油を使用して高温でいためる特徴を生かし、おいしいいため野菜を作ることができた。また、おいしく作るために調理計画、調理の仕方について問題を見だし、課題を解決する力を身に付けることができた。
- 6年生のエプロン製作では、エプロンの作り方を理解し、布の色や自分に合う身丈の長さを考え、ポケットの位置など、使う場面を考えて製作することができた。
- 家族や地域の人々との関わりについては、家族と過ごす時間を増やすための工夫について考えたり、発言したりする児童が多かったが、自分事として実践に移せる児童が少なかった。どのように家庭生活に直接結びつけていくのか方策を考える必要があった。

主体的に学習に取り組む態度

- 各調理実習後に家庭で振り返りを兼ねて、実習と同じように家で調理をしたという児童が多かった。実際に調理の流れを把握し、再度やってみることで調理の基礎・基本を身に付けることができた。
- 裁縫の作品作りでは、教科書をよく読み、困っている児童がいたら助け合う協働的な姿が見受けられた。
- 手縫いでは、丈夫に長持ちするよう目的に応じた縫い方について、自ら課題を見付け主体的に取り組む機会を増やす。

2 授業改善プラン

高学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・手縫いやミシン縫いの仕方が分かり、それらを使った目的に応じた縫い方を理解するとともに、それらの作業に必要な用具の安全な取扱いについて理解し、適切にできるようにする。 ・家族とのふれあいや団らんの大切さについては、食事や家庭の仕事などを共にしたり、あいさつや会話を通してコミュニケーションを図ったりすることで家族の団らんが家族とのつながりを深める重要な生活行為であることを理解できるようにする。	・製作については、作品を仕上げるための製作手順や手縫いやミシン縫いによる縫い方などについて問題を見だし、課題を設定できるようにする。試し縫いをしたり、身に付けた技能を生かした縫い方を検討したりするなど、計画に合わせて効率よく製作できるようにする。 ・家族とのよりよい関わりについては、家族との触れ合いや団らんについての問題を見だし、課題を設定できるようにする。家族との触れ合いや団らんの時間を生み出すために自分が協力できることなどについて考えられるようにする。	・手縫いやミシン縫いの基礎的・基本的な知識及び技能の習得に粘り強く取り組めるよう繰り返し練習したり、友達と作り方を比較したりして、工夫し創造しようとする態度を育てる。 ・家庭生活を支える家族の一員として、生活をよりよくしようとする意識をもち、家庭生活を工夫し、家族と協力して生活していこうとする態度を育てる。

体育科

1 昨年度の授業改善プランの検証 【成果（○）と課題（●）】

知識・技能

- 全学年において、学習資料や学習カードを工夫することで、運動の行い方を知ったり、技能のポイントを理解したりすることができた。また、身に付けた知識や技能を次時に活かしていけるような振り返りを行うことで、学習内容の理解を深められた。
- 体力テストの結果から、1～5年生で多くの種目において昨年度の結果を上回ることができた。
- 自己の課題を解決するために、課題解決の場を提示したが、適した場を選ぶことができていないことが多かった。どのような運動をすれば課題を解決できるのか理解ができていないことが多かった。今後、課題をもたせるとともに、解決方法の理解を深めていくことが求められる。
- 6年生においては、運動量が減ったことから、体力テストの結果は昨年度と同等であった。

思考力・判断力・表現力等

- 身体能力を向上させるための手立てとして、協働的学習を盛り込んだペアやグループによる学び合いの場を様々な運動領域において設定した。また、ICT機器を活用したアプリケーションで動きを撮影したり、資料を確認したりして、互いに動きや技のポイントを伝え合うことで、思考する力が高まった。
- ペアやグループで学習することで、お互いの動きを見合ったり、アドバイスをしたりすることはできたが、相互に教え合うのではなく、一方的に教える様子も見られ、全児童が自分の考えたことを表現する力が身に付いたとは言えない。今後、ペアやグループ学習の行い方を発達の段階に応じて検討する必要がある。
- 広い校庭を使つての体育学習が行えないため、ボール運動での動きを思考する場面が減ってしまう恐れがある。屋上などでの運動を取り入れ、ICTで動画を活用し、考えながら体育学習に臨めるようにすることが必要になる。

主体的に学習に取り組む態度

- 粘り強く学習に取り組めるように学習過程を工夫し、PDCAサイクルを中心にした授業を行うことができた。
- 体育学習を通して、運動に肯定的な思いをもっていない児童がいたこともアンケート結果から分かった。そのため、体育学習に意欲的に取り組めるような手立てが必要になる。また、課題に対する振り返りを行えていない児童も多くいた。

2 授業改善プラン

低学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 自己の学習課題に適した運動の場を選ぶことができるように、遊びの場を複数用意する。 ・ 身に付けた知識や技能を今後につなげていくことができるように、学習カードにポイントや分かったことを記録する。また、次時に向けて取り組みたいことなどを具体的に記入する。 ・ 学習の中で場の工夫や用具を使った運動を通して、体力や運動技能の向上に取り組む。	・ 自分が考えたことを友達に伝えることができるように、ペアやグループで動きや技を見る視点を明確に与えて運動に取り組めるようにする。 ・ 運動の特性や児童の実態に応じて段階的な練習の場を用意し、ペアやグループごとに、簡単な練習に取り組めるようにする。	・ 1 単位時間の終末には振り返りの時間を設定する。選択肢を用意したり、めあてに対する振り返りをしたりする習慣を身に付けられるようにする。 ・ 学習の目的を明確にし、児童とともに学習課題や学習計画を立てる。 ・ 狭い運動の場を生かし、選りながら運動遊びに取り組めるように奨励する。
中学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 自己の学習課題に適した運動の場を選ぶことができるように、運動の場を複数用意する。 ・ 身に付けた知識や技能を今後につなげていくことができるように、学習カードにポイントやこつを記録させる。また、次時に向けて取り組みたいことなどを具体的に記入させる。	・ 友達からのアドバイスを通して運動技能を向上させることができるよう、相手に「見てほしい」「伝えたい」視点を伝えてから運動に取り組めるようにする。 ・ 運動の特性や児童の実態に応じて段階的な練習の場を複数用意し、ペアやグループごとに、自己の学習課題に合った練習に取り組めるようにする。	・ 1 単位時間の終末や単元の終末には振り返りの時間を設定する。めあてに対する振り返りをするように声を掛け、次時の課題をもてるようにする。 ・ 学習の目的を明確にし、児童とともに学習課題や学習計画を立てる。 ・ 狭い運動の場を生かし、考えながら運動遊びに取り組めるように奨励する。
高学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 方法や効果の分かりやすい練習を複数提示し、自分たちで繰り返し練習できるようにする。 ・ 身に付けた知識や技能を今後につなげていくことができるように、学習カードにポイントやこつを記録させる。また、次時に向けて取り組みたいことなどを具体的に記入する。	・ 正しい運動方法や技の完成例等と見比べ、めあてや課題に即したアドバイスができるよう、自分が「見てほしい」「伝えたい」視点を伝えた上で運動に取り組めるようにする。 ・ 運動の特性や児童の実態に応じて段階的な練習の場を複数用意し、ペアやグループごとに、自己の課題に合った練習方法や場を自ら選択させ、取り組ませる。	・ 1 単位時間の終末や単元の終末には振り返りの時間を設定する。振り返りの視点を示して、成果と課題を認知し、自らの学習を調整しながら学習を進められるよう指導する。 ・ 学習の目的を明確にし、児童とともに学習課題や学習計画を立てる。 ・ 休み時間や朝活動の時間に運動遊びを奨励する。

外国語活動・外国語科

1 令和7年度大田区学習効果測定結果の分析

(1) 全体的に見た分析結果（6年生のみ）

全体的に見て、正答率は目標値より上回っている。

(2) 観点別に見た目標値との比較

知識・技能

正答率は、目標値よりも上回っており学習状況は良好といえる。

思考・判断・表現

正答率は、目標値よりも大きく上回っており、学習状況は良好といえる。

2 昨年度の授業改善プランの検証 【成果（○）と課題（●）】

知識・技能

○数字や天気、曜日など基本的な英単語が身に付いており、聞き取ったり会話で使用したりすることができた。

●似たような発音のアルファベットの聞き取りや、4線上にアルファベットを正しく書くこと、大文字と小文字の書き分けが不十分であった。

思考・判断・表現

○友達との会話において、大まかな内容を理解し、それに対する受け答えをすることができた。

●道案内など正確に聞き取る会話では、細かい部分まで理解しきれないこともあった。

●簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことに課題がある。

主体的に学習に取り組む態度

○習った単語でゲームをしたり友達とコミュニケーションを取ったり、楽しく学習したことで意欲的に英語を話そうとしていた。

3 授業改善プラン

低学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 英語の挨拶等基本的な日常表現をコミュニケーションで取り入れる。 - 単語や短いフレーズを覚えるための楽しいゲームを取り入れる。	- 気持ちや挨拶など、ジェスチャーを使って英語で伝える活動を取り入れる。 - 絵本や動画でお話の内容を想像したり、簡単な受け答えをしたりする。	英語の歌やゲームを通して、コミュニケーションを図る楽しさを体験する。
中学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- ローマ字の学習から、少しずつアルファベットを読んだり書いたりタブレットで入力する学習を取り入れる。 - 短い会話を練習し、伝え合う活動を取り入れる。 「好きな食べ物」「曜日」「時間」など身近なものを英語で言えるようにする。	- 基本的な表現を用いて、挨拶、感謝を伝えたり、簡単な指示に対して応じて動いたりできるようにする。 - 自分のことや身の回りの物に関する事柄について、話型を意識しながら簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり答えたりする。	- 英語の歌やゲームを通して、コミュニケーションを図る楽しさを体験する。 - 教科書やデジタル教材を活用し、様々な国の文化や習慣の違いを知り、日本との共通点や相違点について話し合う活動を取り入れる。 - 児童の日常生活に関して身近で簡単な事柄を取り扱うようにする。
高学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 活字体で書かれた英語の文字を識別し、意味を理解させながらその読み方を発音することができるよう練習をして慣れるようにする。 - 簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるように音声で繰り返し聞き、発音の練習をする。 - 自分のことや身近で簡単な事柄について、理解できる単語をヒントにしながら基本的な表現を聞き取ったり短い話の概要を捉えたりできるようにする。 - アルファベットを聞き分けたり大文字と小文字で書き分けたり、字形や4線上に書く位置に注意したりして書けるよう繰り返し練習する。	- 基本的な表現を用いて指示や依頼をしたり、それに応じたりすることができるように様々な表現に触れて発音練習をする。 - 自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるように、友達同士、児童と外国語教育指導員の会話を繰り返し練習し、書くことにもつなげられるようにする。 - 友達が言ったことを簡単にメモする、相手を見てコミュニケーションを取るなど相手が言ったことを正確に理解するための取り組みを行う。	- 教科書やデジタル教材を活用し、様々な国の文化や習慣の違いを知り、日本との共通点や相違点について話し合う活動を取り入れる。 - 児童の日常生活に関して身近で簡単な事柄を取り扱うようにする。 - これまで学習した英語の表現を繰り返し練習し、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や表現を用いて話すことができるようにする。 - 語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。